



株式会社菅原組

社内報

vol. 31

2022年4月号

私達が携わった 東北地方のいま

2011 年 3 月 11 日 午後 2 時 46 分

私達がいまだかつて経験したことのない M8.0 の大きな揺れに日本各地が襲われました。街には緊急車両のサイレンが鳴り響き、避難を呼びかける放送が流れ、緊迫した様子を今でもしっかりと覚えています。

大地震によって発生した大津波は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらし、様々な物を奪い去っていきました。当社本拠地となる北海道南部は幸い復旧に数年掛かる様な被害は免れ、比較的短期に復旧され日常を取り戻す事ができましたが、東北方面はあまりの被害の大きさにより通常の生活すらままならない状態となっておりました。

海を中心とした建設業を担う当社は復興の一助として岩手県大船渡市を基地とし、当時の専務（現社長）が自ら乗り込み、復旧工事に取り掛かる事となりました。

工事に乗り込んだ頃の大船渡は、街灯もついていないので夜は不気味なほど暗く、余震が日常的に続き不安な日々の中、工事を進める事となりました。また、重機・材料・人材全てが不足する状況の中、悪戦苦闘をしいられました。目の前の問題を一つ一つ解決しながら復興を進めて参りましたが、震災から 10 年以上経過し、街の賑わいを取り戻しつつある現状で当社施工が一区切りを迎えました。

津波は沢山の物を奪っていきましたが、復興に携わった事によって、現地の方々とは災害でも奪われる事の無い「絆」を作ってくれました。これからも益々東北地方が発展する様に、心から祈っており、復興に携われた事に感謝の気持ちでいっぱいです。今回は復興に携わった一部の現場ですが、担当者のコメントと共に紹介したいと思います。

綾里漁港災害復旧工事

担当した職員：若山、東、北畠、山田、工藤、澤谷、福原、水澤、松田、鈴木、河野、竹内、児玉

工事部 東



私が担当していた工事は、綾里漁港の災害工事第 56 号、第 57 号工事で、東日本大震災で被災した沖の防波堤を復旧する工事でした。

私が現場に乗り込んだ頃は、作業班もなかなか手配ができませんでした。やっと手配が付き来てくれましたが、作業員はあまり現場経験のない人やブロック製作を行ったことがない人ばかりだった為、ブロックの型枠組立作業時は、ボルトの入る箇所も自ら実践して見せながら行い、締め付け加減や締め付けしていない所の点検をし

てまわりました。コンクリート打設時は、コンクリートの打ち込み高さや締め固め間隔、締め固め時間など実践して見せ、手取り足取り教えながら作業を行い、苦労した思い出があります。

また、生コン、資材、重機等も不足していて、生コンは 1 カ月前から予定を入れておかないと出荷してくれない状況でした。

ケーソンの仮置、据付作業時では、作業関係者で施工サイクルの流れ、タイムスケジュールなど念入りに打合せを行い、作業関係者の方々の協力のおかげで、何事もなく、無事仮置、据付を完了できました。

その後は、函館周辺の現場の方を担当していたので、綾里には行っていなかったのですが、Aipo で現場職員が掲載してくれている写真を見て、着工前とずいぶん変わっていて綺麗になっているなどと思いました。

綾里漁港のその他の工事も無事全部完成して、関係者の方々には改めて心より感謝いたします。

只出漁港海岸災害復旧(防潮堤)工事

担当した職員： 福原、松田、中嶋、竹内、佐々木、長内、澤谷、児玉、高山、安田

工事部 松田



岩手県陸前高田市の広田半島の付根に位置する只出漁港(ただいでぎょう)での防潮堤工事です。

この場所は、太平洋側(写真左)からと、陸前高田市(写

真右上)から回り込んだ両方から津波の被害を受けた場所です。工事は写真に写る中下から左上までの防潮堤全て施工延長。約1km、生コン使用総数量約50,000m³程。北海道では経験したことのないような大規模工事でした。現場は重機と作業班で溢れ、何箇所も同時に施工を行い、管理が非常に大変だった事を思い出します。工事は2015年8月に調査から始まり、4年8ヶ月の苦労を経て2020年3月に完成しました。長期間同じ地域に居ましたので、今では第二の故郷の様に思っており、東北の皆様が、日常を取り戻し笑顔が溢れる事を心から祈っております。

大船渡漁港海岸高潮対策(細浦地区防潮堤その1)工事

担当した職員： 佐々木、北畠、黒澤、山田、長内、松田、児玉、嵯峨、新沼

工事部 佐々木



日本初の海底設置型フラップゲート式水門の設置をしました。既に水門函体は完成しており、水深-11.5mの海底に設置された56本の鋼管杭が函体のさや管で接合さ

れる構造体です。接合部に充填されるグラウトの設計強度の制約からも偏芯量を150mm以内で施工する必要がありました。仕様書規格での管理値は400mmですが、それ以上の品質管理が要求されました。故に水中部は水中導材を作成し海底に設置。潜水土による誘導で導材と杭との離隔確認を100mm以内でずれ量を抑える打設管理を進めました。二重、三重の管理で、工期に遅れることもなく無事、水門を着底させる事ができました。水上に見える構造物で、非常に管理の難しい作業でした。

脇之沢漁港(利用調整施設)災害復旧工事

担当した職員： 北畠、佐々木、澤谷、児玉、竹内、新沼

工事部 北畠



工事は下記の3工事を行いました。

- ・脇之沢漁港(利用調整施設)災害復旧工事
- ・脇之沢漁港用地嵩上げ工事
- ・脇之沢漁港(利用調整施設)浮桟橋ほか災害復旧工事

平成28年9月着工、平成31年3月竣工
東北に来て、約10年復興工事に携わってきました。当時、防波堤や防潮堤は倒壊、岸壁は壊れ、港そのものが沈下しており、満潮になると岸壁は水没し道路まで海水があがる状況だったことを覚えています。また、施工する業者や作業員も少ない状況だったことで、職員だけでブロック製作をしていたこともありました。いろんな現場を施工してきて、元請業者や発注者、また地元の人とのコミュニケーションを取ることが大事だと実感しています。



工事本部 工務部 主任
第二十管栄丸船長

斉藤 貴徳



今回は、工事本部工務部主任の斉藤さんをご紹介します。菅原組での仕事を天職であると語る斉藤さんの思いをご覧ください。

入社した経緯

2016年入社して現在6年ほど在籍しています。これまで数々の職業に就いていたのですが、元々漁師をしていた経験があり、さまざまな縁もあつて菅原組に入社する運びとなりました。入社当時は戸惑うばかりでしたが、とにかく船に乗って仕事を学び、船団長や上司の教えもあつて、昨年第二十管栄丸の船長を拝任するに至りました。

辛かったことや挫折したことが思い浮かばないほど今の仕事を楽しんでいるので、自分にとっては天職だと感じています。

主な業務内容

第十一すがわら号では、浚渫作業やブレーカー作業をメインに行っています。浚渫とは、漁港内の底に溜まっている砂を掘って陸に

上げ、堆砂によって漁港が徐々に浅くなるのを防ぐ作業のことです。また、ブレーカー作業は築港時の岩盤除去や、補修時のコンクリート修繕などを目的として行われます。重機を扱うため数多くの資格が必要ですが、会社がバックアップしてくれるので特に苦もなく取得できました。

思い出深い仕事

伊豆諸島の三宅島で行ったブレーカー工事が最も印象に残っています。船舶の航路をつくる仕事だったのですが、普段活動している東北エリアから片道五昼夜かかるほどの遠方で、海洋環境も違うので大変でした。通常とは違い、三宅島近海の海底岩盤は溶岩だったため、砕岩作業の難易度が非常に高かったのも、強く印象に残っている理由の一つです。また、何より思いに残っているのは、生活用水の貴重さを実感したこと。半年ほどの工期を予定していたのですが、あらかじめ積んだ水が3か月ほどで尽きてしまったため、船上生活が非常に困難なものとなりました。本州から離れているため再補

給に行くのも難しく、不便な生活を強いられました。三宅島の方々にご助力いただいたこともあり、何とか竣工を迎えられたのを覚えています。

今後の目標

実は最近私の息子が入社して、今第十八すがわら号に乗っているんです。元々水産高校に通っていて、在学中に船舶免許を取得するくらい船が好きでな子だったので、勧誘してみたら「入りたい」と乗り気でしました。私が菅原組の仕事の楽しさを伝えていたのが良かったのでしょう（笑）本人は「将来は船長になりたい」という野望を持っているみたいなので、彼が目指す人物であり続けたいというのが私の目標です。



こんな活動、知ってた!?! 社会貢献活動レポート

★ 函館大谷高等学校 フィールドスタディ

日 時 2022年2月18日(金) 9:15~11:30

(1コマ目 9:15~9:50、2コマ目 9:50~10:15)

担 当 者 成田係長、松田係長、小笠原さん、赤塚さん、
堂高さん、三浦さん

場 所 ZOOMで実施

当日の流れ:

菅原組自己紹介



函館大谷高等学校の生徒さんの自己紹介



「建設業・菅原組について」、「業界が取り組む社会問題とは」
をPowerPointで説明

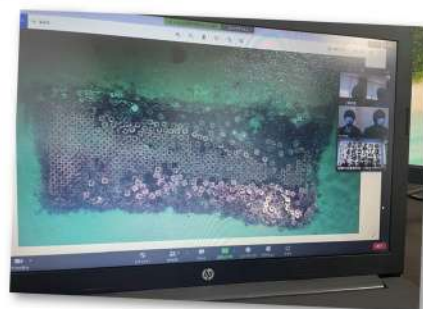


工事部員1日のムービー視聴(当時新入社員だった平野さんの1日)



函館海岸作業所から現場の説明、質問回答

※この流れを2回実施



活動を
終えての
感想

今回は管理本部に加えて、函館海岸作業所と
ZOOMで接続しながら、フィールドスタディ
を行いました。

今までフィールドスタディを数回行いましたが、学生さんのお話を伺ってみると、「建設業についてのイメージがつかみづらい」という意見が何度かありました。そのため、管理本部から、「建設業とは? 建築・建設の違い、仕事の流れ」について簡単にPowerPointで説明しました。また、函館海岸作業所からは赤塚さん、堂高さんが現場で撮影した写真を画面で共有しながら、学生さん目線でわかりやすく現場についてお話をしてもらいました。



次回に
向けて

今までのフィールドスタディは直接学生さんと対面で行っていましたが、今回はZOOMを使いパソコンの画面越しでお話をさせていただきました。

1つの画面で数名の学生さんが参加していたので、画面に参加者全員が映らない、画面から遠く離れているため、学生さんの反応がわかりづらいなど問題点があり、積極的にコミュニケーションを取ることが難しかった点は、次回、改善していきたいと思っています。



表彰報告

北海道働き方改革推進企業・女性活躍表彰



道南の事業所では初の「北海道働き方改革推進企業・女性活躍表彰」をいただきました。女性の活躍やワークライフバランスに取り組んでいる企業を称え、女性が安心して働ける職場環境を広げることを目指すものです。

評価された点

「女性の技術者の採用」
「資格取得支援制度の活用による女性のスキルアップ(ドローン操縦)」
「奨学金返済支援制度による若者の経済的な負担を軽減(定着率向上の取り組み)」
に取り組んでいることが特に高く評価されました。

北海道社会貢献賞

永年の組織的な献血への協力で賞状と表彰盾をいただきました。
3/17にも献血を行いました。次号で献血の様子をお知らせいたします。



健康経営優良法人2022に認定されました



株式会社菅原組は、令和4年3月9日、経済産業省と日本経済会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人2022(中小企業部門)」として認定されました。

従業員が心身ともに元気に働ける事業所を目指して、「健康経営」にこれからも積極的に取り組んで参ります。

※「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することとされ、健康経営優良法人認定制度は、地域の健康課題に即した取り組みや、日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。(経済産業省より引用)



衛生管理者よりお知らせ

4月から新年度の健康診断を実施しています。

今年度から1万円分まで会社負担でオプション健診を受けられることになりました。

オプション健診を積極的に活用し、健康不安を取り除き、健康を維持していきましょう。

令和4年度 子育て応援祝金贈呈

2017年4月に就業規則により制度化した「子育て応援祝金制度」
今年も進学されるお子さんがいるご家庭に御祝金を贈呈しました。

今年の該当者人数

小学校4名/中学校3名/専門学校7名/大学1名



充実した学校生活を送ってください。
おめでとうございます!

HAPPY BIRTHDAY TO YOU!

5月生まれの皆さんをご紹介します。

5/4

工事本部 工事部
主任
なかじま けんいち
中嶋 憲知さん

5/17

取締役 会長
すがわら とおる
菅原 徹さん

5/18

工事本部 工務部
第七すがわら号
ひがしで こうじ
東出 光治さん

5/27

工事本部 工務課長
第十すがわら号 船団長
いしやま ひろふみ
石山 大文さん

5/29

取締役 営業部長
すがわら しゅん
菅原 峻さん

5/31

工事本部 工務部
第七すがわら号
ふくし けいご
福土 啓呉さん